

原油市場展望

2023年8月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2023年8月3日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎（Tel：080-4176-4439 Mail：matsuda.kentaro@jri.co.jp）

◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます（右側QRコードからもアクセスできます）。

新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。

<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。



原油価格見通し：80ドル台へ

◆現状：80ドル台へ上昇

7月のWTI原油先物価格は、総じて上昇基調で推移。月前半は、サウジアラビアが日量100万バレルの追加減産を8月も継続すると表明したほか、米国の物価関連指標の鈍化を受けて米FRBによる金融引き締め観測が後退し、77ドル台へ上昇。

その後は、中国の経済指標が市場予想を下回ったことから一時73ドル台へ下落したものの、①米株高によるリスク選好の動き、②OPECプラスの減産による需給引き締め観測、③堅調な米国の景気指標などを背景に、月末には、一時81ドル台後半へ上昇。

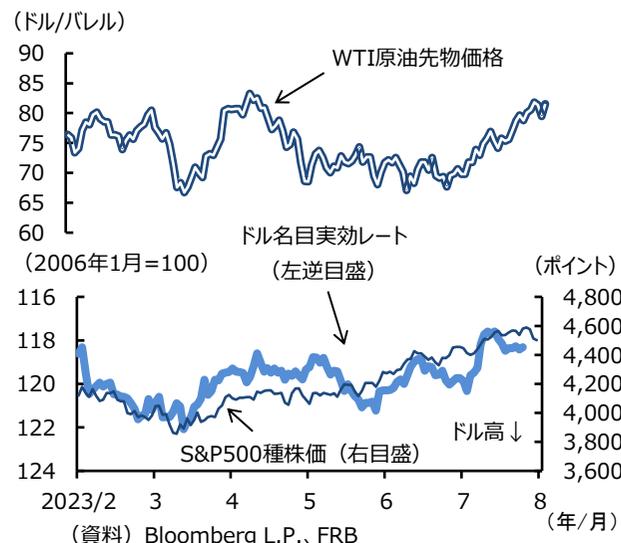
◆投機筋の買い越し幅は拡大

OPECプラスによる減産や主要国の金融引き締め観測後退などから原油需給が引き締まるとの見方が強まり、投機筋による原油先物の買い越し幅は拡大。

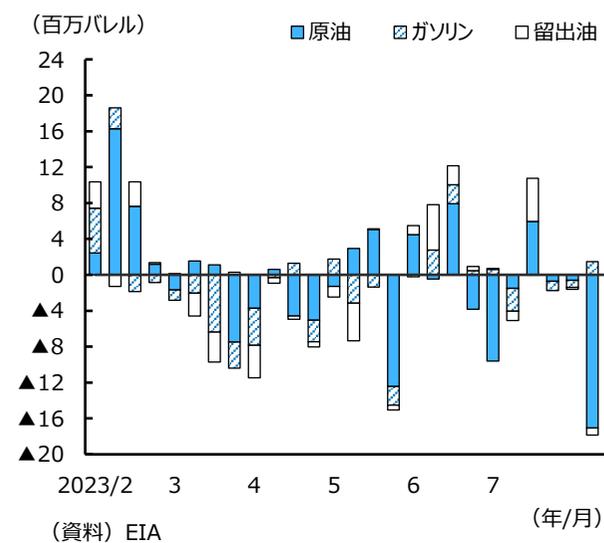
◆見通し：上昇圧力がかかりやすい地合い

先行きを展望すると、原油価格に上昇圧力がかかりやすい展開が続く見込み。OPECプラスによる大規模減産の継続や米シェールオイルの増産ペースは緩やかにとどまることから原油供給の増加は限られ、需給引き締め意識されやすい展開に。ただし、主要国では金融引き締めを背景に景気が減速するほか、中国でも景気回復ペースが緩慢になることから、価格上昇ペースは緩やかにとどまる公算。

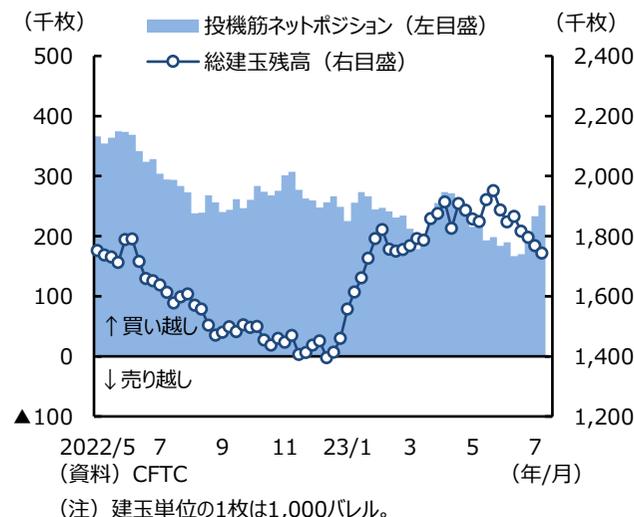
原油価格と株・為替レート



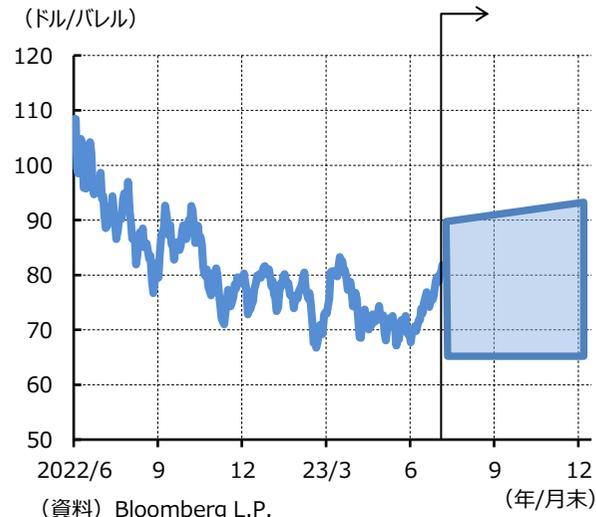
米国の原油・石油製品在庫 (前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



トピック：サウジの自主減産などで強まる需給ひっ迫観測

原油

◆供給抑制による需給ひっ迫観測が強まり

足元の原油市場では、供給不足への懸念が高まる状況。OPECプラスの既往の減産体制に加え、サウジアラビアが単独で7月から日量100万バレルの自主減産を実施。ロシアも夏場にかけて50万バレルの輸出削減を表明。加えて、米国の原油生産量も足踏みしており、先行指標となる石油リグ稼働数は昨年末から減少傾向。

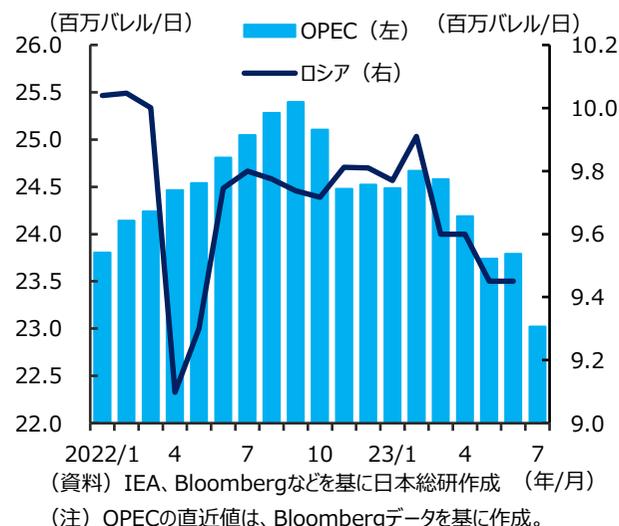
OPECプラスは需要動向を見極めるべく、当面は現行の枠組みを維持する見込み。足元の原油価格は80ドル台前後と、概ねOPECプラスの主要国の財政収支均衡価格を超えており、少なくとも同水準を維持したいとの思惑。

産油国の消極的な供給姿勢を背景に、年後半の世界の原油需給バランスは需要超過となる見込み。原油価格には上昇圧力が生じやすい状況に。

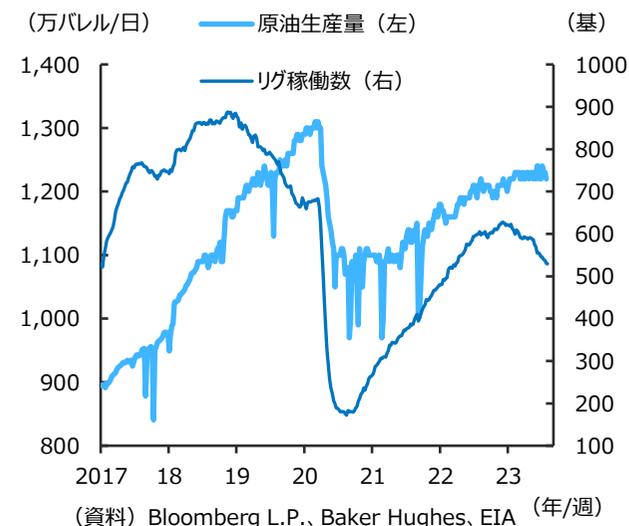
◆年終盤に減産スタンスの変化を予想

もともと、年末近くには、OPECプラスは減産スタンスを軟化させると予想。OPECが公表する24年の原油需要見通しは、IEAなど他機関の予想を上回る回復を想定。加えて、大きな余剰生産能力を抱えるUAEは、追加減産などに対して消極的。同国は長引く減産への不満から増産への切り替えを強く主張する可能性。

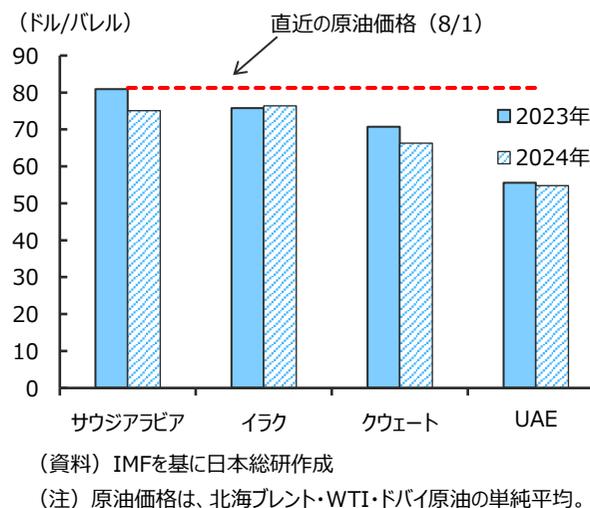
OPECとロシアの原油生産量



米国の原油生産量と石油掘削設備 (リグ) 稼働数



主なOPEC加盟国の財政収支均衡原油価格



世界の原油需給バランス

